

# テラヘルツテクノロジーフォーラム通信

Vol.9, No.1

## 「テラヘルツテクノロジーの産業化を目指して」

テラヘルツテクノロジーフォーラム会長 阪井 清美

この度の東関東大震災で被災された皆様に心よりお見舞い申し上げます。

すでに我が国のテラヘルツコミュニティの方々は御存じの事と思いますが、昨年、科学技術振興機構（略称 JST）が立ち上げた産学イノベーション加速事業「産学共創基礎基盤研究」

（<http://www.jst.go.jp/kyousou/>）に応募し、多数の応募課題の中からたった2課題が採択され、その課題の1つに「テラヘルツテクノロジー」が選ばれました。そしてその後テラヘルツ分野での研究課題の公募があり、選ばれた幾つかの研究課題が走りだそうとしています。ここに到る一連の経緯を書いておきます。

JST が産学共創の研究課題を公募しているとの情報を得たのは、昨年7月末に浜松で開催された日本学術振興会（学振）の「テラヘルツ波科学技術と産業開拓第182委員会」での事で、応募締切まであと2週間というところでありました。先ず182委員会委員長の安岡先生（フォーラム顧問）に学振側に周知していただいた後で、フォーラムとしても応募できないかと考え、現体制の2～3名の理事の協力を得て締切日ぎりぎりに会長名でJSTに応募書類を送ったところ、この代表者は産業界の人の方が良いとのコメントを得ましたので、フォーラム副会長の大光敬史氏（アイシン精機（株）常務役員 / イムラアメリカ取締役社長）に代表者をお願いしました。その後、10月中旬にヒヤリングを行うので準備されたいとの要請が、また2週間程前に入り、これも急遽若干名の理事でプレゼンテーションの資料の作成と検討を行い、米国在住の大光氏に代わり、アイシン精機の上原譲氏がプレゼンテーションをされました。その後昨年末になって、フォーラムからの提案が採択されたとの報が我々のところに入りました。プレゼンテーションから採択に到る約2カ月の間に、JSTからはテラヘルツテクノロジーフォーラム（以後テラテックフォーラム）の活動に対する照会もあり、これまでに発刊された「テラヘルツテクノロジーフォーラム通信」や2007年に出版した「テラヘルツ技術総覧」等を手渡しました。いわばこれまでのテラテックフォーラムの活動の総てをJST側にお示ししたことになります。採択されてからは、今年1月中旬に産業界の意見を聴く会が開かれ、「テラヘルツ波新時代を切り拓く革新的基盤技術の創出」という技術テーマで研究課題の公募が行われました（プログラムオフィサーは、JST イノベーションプラザ宮城館長の伊藤弘昌氏）。3月3日がその締切日でありましたが、3月11日に起こった東日本大震災のため色々な決定プロセスが大幅に遅れ、選ばれた研究課題でキックオフしたのが7月14日であります。

この事業は、日本の産業競争力を強化する事を第一義とし、企業では対応できない事を大学等の基礎的